

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	安藤 潤			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
現代の経済・社会：ジェンダー、家事労働、結婚を中心に							
内容							
4年後期のゼミは各ゼミ生の卒業研究テーマとアンケート調査やインタビュー調査の結果を中心に議論したいと考えています。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
参考文献							
川口章『ジェンダー経済格差』勁草書房、2008年。 公益財団法人家計経済研究所『季刊 家計経済研究』各年各号。 佐藤博樹・永井暁子・三輪哲[編著]『結婚の壁 非婚・晩婚の構造』勁草書房、2010年。 治部れんげ『稼ぐ妻・育てる夫 夫婦の戦略的役割 アメリカ人52人のワーク・ライフ・バランス』勁草書房、2009年。 橘木俊詔[編著]『現代女性の労働・結婚・子育て』ミネルヴァ書房、2005年。 西村純子『ポスト育児期の女性と働き方 ワーク・ファミリー・バランスとストレス』慶應義塾大学出版会、2009年。 松田茂樹『何が育児を支えるのか 中庸なネットワークの強さ』勁草書房、2008年。 山田昌弘[編著]『「婚活」現象の社会学 日本の配偶者選択のいま』東洋経済新報社、2010年。 その他、様々な研究所の論文集、レポートなどを考えています。							
ゼミの進め方							
各ゼミ生による報告と議論が中心になります。							
成績評価基準							
報告・司会進行・質問・課題提出などゼミへの取り組み方全般とレポートで評価します。欠席は理由の如何を問わず3回までですが、無欠席が大原則です。							
ゼミ選択上のアドバイス							
すでに選択しているので特にありません。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

ジェローム・フェラーリ『原理』	
カール・レーヴィット『ヘーゲルからニーチェへ』	
カール・レーヴィット『ウェーバーとマルクス』	
ハンナ・アーレント『全体主義の起源』	
ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン——悪の陳腐さについての報告』	
トーマス・マン『魔の山』	
ドストエフスキー『悪霊』	
クラウス ティーレ=ドールマン『ヨーロッパのカフェ文化』	
など。	
ゼミの進め方	
文献の講読を中心に、適宜グループワーク的な輪読形式も取り入れながらゼミを進めていく。	
成績評価基準	
講読における発言 50%+毎回のコメントカード 50%	
ゼミ選択上のアドバイス	
飲み会や小旅行、合宿、他大学との合同ゼミなど、授業時間外の活動も楽しみたい。	
その他	
LINE グループを作り、連絡し合う。	

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	矢口 裕子			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
テキスト講読によるジェンダー／文学／文化批評							
内容							
文学研究の世界では、1980年代後半以降、「ジェンダー・階級・民族性」という新たな視点を導入することにより、それまで埋もれていた周縁的位置に追いやられていた作家・作品が発掘され、さらに、すでに正典（キャンオン）として評価が確立しているかに見えた作品を読み直す作業が盛んに行われるようになった。また、そうした新たな批評の道具を映画・音楽等ポピュラーカルチャーの解説に応用する試みも活発である。 このゼミでは、そうした批評的視点から文学、映画、音楽、文化一般や時代を読み解くこと、最終的にはその成果としての卒業論文をまとめることを目標とする。 日本語のテキストと英語のテキストを両方取り上げる予定だが、場合によっては英語のみとする、翻訳のゼミにする等の選択肢もありえる。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
田嶋陽子『ヒロインはなぜ殺されるのか』講談社 舌津智之『どうにも止まらない歌謡曲』晶文社 Harry M. Benshoff and Sean Griffin, Gender and American Film , Eihosha. Anais Nin, Linotte: The Diary of Anais Nin , Harcourt.							
ゼミの進め方							
レポーター制によりテキストの精読を行う。レポーターの仕事は、テキストの内容をまとめ、調べるべきことを（舐めるように）調べ、そのうえで自分の意見・疑問・論点を提示し、ゼミ内の議論を活性化させることである。むろんレポーター以外の学生もテキストを精読し、自分の意見を用意してゼミに臨むことが求められる。							
成績評価基準							
レポーターとしてのゼミへの貢献度、普段の発言等ゼミへ取り組む姿勢、随時課す少レポート、半期ごとに課す期末レポートの成果を総合的に判断する。							
ゼミ選択上のアドバイス							
読むこと、書くこと、考えることが好きな学生、様々な分野にアンテナを張り巡らせた、知的好奇心旺盛な学生を歓迎する。卒論を完成させる4年ゼミは、大学生活の集大成となる重要なものである。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	佐藤 若菜			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
論文の書き方について							
内容							
本ゼミでは、レポートや論文の書き方を指導する。論文の閲覧と要約を通して、論文とは何かについて理解することを目指す。また、卒業論文の要となる資料収集についても指導を行う。特に、日本語だけでなく、英語ないし中国語の書籍・論文を読むことを必須とする。各自が設定したテーマに関して、日本とそれ以外の国における研究内容の違いについて考察する力を身につける。 3年次後期からは、自身の卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関連した学術書を読む。4年ゼミでは卒業論文の進捗状況を報告し、執筆した草稿を定期的に提出する。 <これまで指導した卒業論文のテーマ> ○母娘関係、結婚 ・現代日本における友人化した母娘関係：未婚期から既婚期への変化に着目して ・日中国際児の言語選択：母親による言語教育に着目して ・日本における児童ソーシャルワーカーの役割と位置づけ：イギリスとの比較から ・日本における人とペットの関係性：イヌに着目して ・日本における現代女性の結婚観：晩婚化とその対策 ○社会関係 ・現代中国における若者の化粧行動：「90 後」世代に着目して ・社会的迷惑行為の日中比較：中国における迷惑行為基準への視角から ・被災地における音楽空間の創出：「癒し」の視点から ・子どもの学力と貧困：秋田県と新潟県に着目して ○人類学の理論、物質文化 ・レヴィ＝ストロースの構造主義：神話研究に着目して ・日本における映画離れの現状と解決策 ・地産地消と食育：新潟県に着目して 毎回の予習・復習として、計4時間相当の課題を出します。ゼミでは、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
戸田山和久、2012、『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK 出版社。 その他、各学生の関心に沿って、適宜指示する。							
ゼミの進め方							
各学生がテキスト・論文・書籍を読んで作成したレジュメをもとに議論を行う。							
成績評価基準							
卒業論文の執筆内容と進捗状況、レポート、発表内容、議論における発言の頻度と内容、出席状況等により総合的に評価する。欠席は原則的に認めない。							
ゼミ選択上のアドバイス							
文化人類学に関心があることが望ましい。特に、親子関係をはじめとした家族、民族衣装・衣服をはじめとした物質文化をテーマとした論文に対しては、より深い指導ができる。また、現代中国に関連したテーマに対しても指導可能。 自身の経験や身の回りで起きている出来事から研究テーマを抽出し、学術的な文章として表現することを目指す。							
その他							
特になし							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	吉澤 文寿			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
卒業研究（3）—オリジナリティを目指した卒業論文執筆							
内容							
私の専門は朝鮮現代史、日朝関係史である。社会学ではなく、歴史学を専門としている。植民地支配をめぐる日本と朝鮮（この場合の朝鮮とは、現在の大韓民国および朝鮮民主主義人民共和国に由来する民族などの総称である）について研究してきた。また、米国での在外研究を通して、米国を視野に入れた比較研究などにも関心がある。個人研究は各人の関心をもとにして設定してもよいが、上記のことを一応留意してほしい。							

このゼミでは以下の通りの計画で進める。							
3年次前期：テキスト学習…近年発表された書籍または論文を輪読したり、それをもとに討論したりする。 詳細は国際研究ゼミナール3の「使用予定テキスト」を参照されたい。							
3年次後期：個人研究（1）—先行研究の整理…学生それぞれが選んだテーマに即した文献等を収集し、その研究状況を整理する。							
4年次前期：個人研究（2）—調査の実施及びその結果の整理…自分で集めた一次資料やアンケートなどで収集した情報を整理する。							
4年次後期：個人研究（3）—卒業論文の執筆…文献や資料などを補完しつつ、論文を執筆し、完成させる。							
使用予定テキスト							
4年次後期のゼミでは、特定のテキストはないが、以下の文献を引き続き貸与する。							
小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社、2009年							
ゼミの進め方							
学生各人が前学期までに進めた研究内容を深め、さらなる文献や史料による補完を進めつつ、卒業論文の内容を報告する。私からも参考になる資料や文献を配布するなど、理解を助ける補助は行うつもりである。							
当面は10月～11月に行われる中間発表会に向けた準備作業となる。その後は12月に予定されている論文提出が目標となる。							
成績評価基準							
出席と卒業論文で評価する。							
欠席をしないこと。とくに無断欠席は厳禁である。							
ゼミ選択上のアドバイス							
もし、このゼミから初めて参加する者は、事前に卒業研究のテーマを設定し、先行研究をある程度整理するとともに、とくに夏季休暇終了までに調査研究しておくことが望ましい。このゼミに参加することが決まった段階で、私に連絡すれば対応する。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	越智 敏夫			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

政治思想と現代社会

あるいは「自分の人生について考えることは他人の幸福について考えることになるのか」

内容

卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組めます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。しかしはっきりいって、現代社会の事象でこの三つに関連しないものは存在しません。なので、およそみなさんが関心をもったことについては指導します。

ゼミナールでは現代の政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるということはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしているうちに本当の阿呆になってしまいます。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなってしまったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。

もし「今の社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。

ゼミナールの具体的な内容としては現代社会について同時代的に考えている人々の論文を読んでいきます。これまでの越智ゼミでは、マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッシェル・フーコーという5人の政治思想家に限定していましたが、思うところあって、今年度は範囲を広げて他の論者のものも読むことにしました。誰の論文を読むかはゼミ生と相談しながら決めます。

しかし一回読んだだけで理解できるようなものを読むことは絶対にないので、ゼミ前の熟読が必要になりますし、ゼミでの議論も複雑なものになると思います。自分の意見を自分から発言するような積極的な学生の参加を期待します。

こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問いとどう結びつくのか心配する人もいるかもしれませんが。しかしこれらの問いについて考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問いを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

たとえば、下記。具体的には学生と相談します。
 ヴェーバー『職業としての学問』 岩波文庫
 ヴェーバー『職業としての政治』 岩波文庫
 ベンヤミン『複製技術時代の芸術』 晶文社
 ベンヤミン『ドイツ悲哀劇の根源』 講談社文芸文庫
 アレント『全体主義の起原』 みすず書房
 アレント『暴力について』 みすず書房
 丸山眞男『現代政治の思想と行動』 未来社
 丸山眞男『日本の思想』 岩波新書
 フーコー『知への意志 性の歴史』 新潮社
 フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』 新潮社

ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、テキスト内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」という3者を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

成績評価基準

出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

ゼミ選択上のアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そここのところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

その他

合宿は夏期休業中に3・4年合同でおこないます。県内を予定しています。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

4. 発表

3年ゼミ・4年ゼミともに卒業論文の進捗状況を月1回の頻度で報告し、
4年ゼミでは定期的に卒業論文の原稿を提出してもらいます。

連絡はメールでおこないます。
指示に従い、期限までに自分のメールアドレスを所定のメーリングリストに
登録してください。

参加者には交代で毎回の授業内容をメーリングリスト宛てに
報告してもらいます。

なお、参加者の人数等に応じて上記の内容を多少変更することがあります。

成績評価基準

授業の参加度と課題の提出状況をもとに評価します。
欠席の多い方、課題提出を怠った方の単位は認めません。

やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

ゼミ選択上のアドバイス

ロシア語既修者の参加を前提としていますが、
ロシア語未習者の方も歓迎します。

ロシア語未習者の方が参加する場合は、授業内容の一部
(ロシア語に関係する部分)を変更します。

参加者に求めるものは主体性と積極性です。

毎週の課題が多いため、予習と復習にはかなりの時間が必要になります。
本を読むのが嫌いな方、文章を書くのが嫌いな方はおすすめできません。

また、学生としての最低限の約束事(必要な連絡や期限など)を
守れない方はご遠慮ください。

旧ソ連地域と東北アジア地域の歴史と文化に関心があり、
情熱を持って学びたい人のための授業です。

学問もスポーツや芸術と同じです。
徹底した基礎訓練の蓄積の上に創造性が開花します。
いっしょに本気で学びましょう。

その他

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	熊谷 卓			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

現代社会を生き抜く-国際法という視点から-

内容

1 ゼミの内容

戦争、貧困、環境保護、移民、宗教対立、国際テロなど、我々の生きる現代社会は地球規模の様々な問題を抱えています。本ゼミナールにおいては、いかにしてこれらの問題を理解し、その原因をあきらかにし、対処のしかたを 考えるか、これまでに試みられた様々な議論を参照しつつ、ゼミナール構成員と共に考えてみたいと思います。

なお、上に見たような問題について考える場合、本ゼミナールにおいては、指導教員の専攻分野である（国際）法を分析の手段として用いることを基本にしています。比喻を用いていえば、今まさに解決を求められる諸問題について、自分が弁護士だったらどう訴訟するか、検察官だったらどう有罪を勝ち取るか、あるいは裁判官だったらどのような判決を下すべきかといった多様な視点から、取り組むことを目的とします。

もっとも、問題の性質によっては、法学的な視点にとどまらず、政治、社会学的、歴史的なアプローチも加味しながら、考察を行います。 以上のような作業をコツコツとでも、しっかり行うことで、「現代社会を生き抜く」（強い社会人となる）ための術(すべ)がゼミナール構成員に伝承されるものと信じています。

なお、法について苦手意識があっても、強いやる気があれば、大丈夫です。ご安心ください。

ただし、かなりのハードワークを求めますし、英語を読むこともあります。この点を留意してください。

2 教員の現在の関心

21世紀の国際社会が解決を求められる国際テロリズムについて、国際法からどのような対処ができるか、研究をしています。

3 これまでの卒業論文のタイトル例(ごく一部です。見れば分かるように、「法」に関するものばかりではありません!)

多国籍企業の社会的責任について、集团的安全保障体制の課題-ケーススタディーを中心に-、国際人道法はなぜ守られないのか-アメリカによる対テロ戦争(war on terror)を中心に-、裁判員制度が及ぼす国内司法制度への影響、公共交通の課題-新潟市の事例を中心に-、日本の小学校英語教育について-韓国との比較を中心に-、日本の学校教育における児童・生徒の人権一体罰問題の解決に向けて-

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

水上編著『国際法』(2002年、不磨書房)

阿部浩巳『国際人権の地平』(2002年、信山社)

なお、判例(裁判の判決)を読むこともあります。

ゼミの進め方

テーマごとに使用するテキストや資料をゼミナール構成員全員で考察します。その際、報告者が中心的研究発表を行います。その他の構成員もそれに対する質疑という形で主体的に参加してもらいます。

成績評価基準

ゼミ報告やレポート(50パーセント)、あるいはゼミへの参加度(50パーセント)を総合的に判断し、成績を付けます。

ゼミ選択上のアドバイス

「ゼミ選択上のアドバイス」の続き

個人的な経験をいえば、大学・大学院のゼミで指導いただいた2人の先生なくして、現在のわたしは絶対に存在していません。「3.4年ゼミ」はそれぐらい重要なものと思っています(本ゼミの卒業生でも大学院で研究を継続している人も居ます)。ですので、十分に検討してゼミを選んで欲しいと思います。

その他

以下、参考までにまとめとして(繰り返しも含め)。

(1) 熊谷ゼミの分析視覚は?→法学的思考(社会科学的思考の1つ)です。もっとも、広く他の学問分野のアプローチも取り込みます。卒論のテーマも結果的に多彩です。

(2) 熊谷ゼミの地理的フィールドは?→限定しません(フランス法も個人的には勉強してきました)。

(3) ゼミ合宿は?→これまで日光、会津、村上、新発田、咲花温泉、群馬、伊香保、越後湯沢等で実施してきました。

(4) (国際)社会の動向に何らかの意味で関心を持っている人に勧めます。

(5) 「3.4年ゼミ」は4年間の学業の集大成であると共に卒業後の人生にも関わります。

ですので、「絶対頑張ります!」という人にこのゼミナールを勧めます。

どうぞよろしくお願いします。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	山田 裕史			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
国際協力研究							
内容							
貧困と開発（保健医療、教育、インフラ）、紛争と平和構築、人道支援などの分野の国際協力に関する研究を中心に行います。 履修者は、文献講読やワークショップを通じて、国際協力に関する理論と各種活動に関する専門的知見を習得するとともに、研究テーマの決め方、文献・資料の探し方と整理の仕方、まとめ方、口頭発表や論文の書き方など、次年度の卒業論文執筆に向けて学術的な技法を学びます。 また、学内外の国際協力団体やイベントへの参加を通じて、市民・学生という立場で国際協力の実践（フェアトレードやテーブル・フォー・ツー等）に取り組むほか、希望者がいれば、カンボジアなど東南アジア諸国をフィールドに国際協力の現場を訪問する、スタディ・ツアーの実施も検討します。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
履修者の研究分野と関心にもとづきテキストを選定するほか、各自のリサーチ課題に応じたテキストを紹介します。							
また、以下のテキストを用いて、卒業論文執筆に必要な学術的な技法を学びます。							
川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術—プロの学術論文から卒論まで』勁草書房、2010年							
ゼミの進め方							
履修者の研究分野や関心にもとづきテキストを選定し、(1)テキストの講読、報告と討論、(2)各自の研究テーマ設定に関する報告と討論、を組み合わせて行います。							
成績評価基準							
(1)出席、(2)テキストおよび各自の研究テーマ設定に関する報告と討論の内容、をもとに総合的に評価します。							
報告内容に関するコメントやレジュメの添削などによるフィードバックを行います。							
ゼミ選択上のアドバイス							
国際協力に関する専門的なテキストも講読するため、後期開講科目の「国際協力論」を3年次に履修することを強く勧めます。							
学びと活動の双方を重視する積極的な学生、「学術論文の書き方もしっかり身に付けたい」という学生の履修を歓迎します。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	佐々木 寛			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

平和のための地球政治学――新しい文明を求めて

内容

当ゼミでは、危険や問題がグローバルに展開する現代で、人間がすこしでもよりよく生きぬいていくための方策をいっしょに考えてみようと思います。そのためにはまず、現代の危機や問題の本当の姿をしっかりと知的につかまなければなりません。身近な問題がもつ世界的な意味をおののが理解すること。これが第一のねらいです。第二に、このような問題を考えるにあたって、なぜ既存の知的な枠組み＝専門分化した社会科学だけではダメなのか、いかにこれまでの「勉強」が、人間がいきいき生きていくための「学問」をダメにしてきたのか、について考えてみようと思います。その意味で、新しい学問運動としての「平和学」の可能性や新しい大学のあり方などについても議論できればと思います。そして最後に、広い世間でさまざまな展開する新しい試みや活動を見る中で、現代でよりよく生きてゆくための新たな方策、新しい生き方や＜文明＞のあり方をともに探求できればと思います。さまざまな市民活動やNGOで活躍する人たちをゼミに招いたり、ゼミ学生自身が自分たちの力でNGOを設立・運営したり、いろいろなことに挑戦しようと思います。

最終的に各自ゼミ論文（3年次）、および卒業論文（4年次）の作成を目指すため、多種多様なテキストを読みこんでゆくだけでなく、さらに必要に応じて調査旅行やフィールド・ワークも行います。また、映画をはじめとする映像資料もできるだけ多く活用する予定です。なお、佐々木ゼミでは毎年、海外に平和研修旅行に訪れるのが慣例になっています。各地の歴史資料館や戦争/平和記念館（ドイツでは「アウシュヴィッツ」、韓国では「ナヌムの家」）などを訪れ、身体全体で世界の問題を感じ、思考することを目指します。

当ゼミでは広い意味での暴力や平和に関する問題を扱いたいと思いますが、細かいことは、参加学生の自由意思にゆだねます。扱うテキストに関しては以下に一例として挙げたものを参考にしてください。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

◎H. アレント『人間の条件』 筑摩書房
◎A. ギデンズ『近代とはいかなる時代か？』 而立書房
◎U. ベック『危険社会』 法政大学出版局
◎A. メルッチ『現代に生きる遊牧民』 岩波書店
◎E. サイド『知識人とはなにか』 平凡社
◎P. ブルデュー『メディア批判』 藤原書店
◎日本平和学会編『「3・11」後の平和学』早稲田大学出版部 など。
ー他に必要に応じて英語文献も読みます。

ゼミの進め方

ゼミの進め方や運営方法に関しては、基本的に参加者と相談して決めます。ただ、テキストを読む場合は、報告者をたてて報告をしてもらい、それを討論者が整理・コメントするという方法をとろうと思います。その後は自由討論。司会も学生です。だから教員は必要最小限のことしか話しません。参加学生がゼミをつくりあげます。

成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度 ＋ レポートの出来。

ゼミ選択上のアドバイス

能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていかうとする気概をもった学生、また、大学生活を締めくくる上で悔いのない卒業論文を書き上げたいと思っている諸君を歓迎します。

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	澤口 晋一			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
自分の脚を使って、観て、考えるゼミ。							
内容							
国際研究ゼミナール5での勉強内容をさらに発展させる。各自のテーマに関係した論文の講読を継続する。							
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
なし							
ゼミの進め方							
個々のテーマに関係する論文（専門誌掲載論文）を前期から継続させ5本以上読むと同時に、夏休みの調査成果をまとめる。							
成績評価基準							
ゼミへの取り組み姿勢等を総合的に評価。							
ゼミ選択上のアドバイス							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
国際研究ゼミナール6	小林 伊織			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
Peter Seminars on World Englishes for juniors/seniors (In preparation for writing an undergraduate thesis on World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF), and sociolinguistics)							
内容							
There are more non-native speakers of English in the world today than there are native speakers. Asia is the region with the largest number of English speakers in the world. This means that the learner in Japan is more likely to use English with other non-native speakers, particularly those from Asia, than with native speakers.							
There is no single standard variety of English in the world. The spread of English around the world meant that many different varieties of English developed in various locations. It did not mean that British English or American English was transplanted in different locations in its original form.							
English is an Asian language. Japan is a part of Asia; English is also a Japanese language. When a Chinese, a Japanese, a Korean and a Russian talk to each other in English, each one speaks his/her own variety of English. Here, what is considered to be “correct” or “incorrect” in American English is irrelevant as long as they can communicate successfully. The learner from Niigata should be able to use English as his/her own tool to express the cultures and thoughts of Niigata to people in Asia and all over the world.							
In the Peter Seminar, we first look at the frameworks and key concepts of World Englishes. Then we explore selected varieties of world Englishes, including Philippine English, Singapore English, Indian English and West African English. Finally, we consider the implications of the emergence of new Englishes for English language teaching and learning.							
The seminar requires 4 hours of self-study per session. This time should be spent doing pre-seminar reading as well as presentation and essay preparations.							
使用予定テキスト							
Honna, N., Takeshita Y. & D’ Angelo, J. (2012). Understanding English across Cultures. Tokyo: Kinseido.							
Honna, N. & Takeshita, Y. (2009). Understanding Asia. Tokyo: Cengage.							
本名信行 (2006) 英語はアジアを結ぶ 玉川大学出版部							
Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students. Oxon: Routledge.							
Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge: Cambridge University Press.							
ゼミの進め方							
1. Pre-class reading 2. Short introductory lecture 3. Small group discussion 4. Student presentation							
成績評価基準							
20% Attendance 20% Participation 20% Presentation 40% Essay							
Before, during and after the semester, you will receive feedback about your performance in the seminar through oral and written methods.							
ゼミ選択上のアドバイス							
You should join the Peter Seminars if you plan to write an undergraduate thesis in English about topics related to World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF) and sociolinguistics.							
その他							
Other details of the seminars will be announced in the first meeting.							

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	アレクサンドル プラ ーソル			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
ロシア社会・文化の歴史と現代・日露文化比較研究							
内容							
生徒にゼミテーマに沿うての分野を選んでもらって、信頼できる参考文献の選択、研究方法、アプローチ、卒業論文の書き方等の指導を行う。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
テキストを利用しない。ゼミ生各々が興味のあるテーマを調べてもらう。教員が適切な研究や参考文献を勧める。							
ゼミの進め方							
ゼミ生に各々興味のあるテーマを選んでもらって授業を進める。それぞれ違うテーマの発表論争に参加することによって生徒の知識を深めることを目指す。人数によって、発表は毎週か隔週かになる。発表しないときは他人の発表を聞いて論争に参加しなければならない(質問、疑問、コメントも可)。調べてきた資料は卒論研究の基礎をなすので、徹底的に進まなければならない。							
成績評価基準							
出席率(66%以上が必要)、発表や発言の質、論争参加によって成績を評価する。							
レポートや発表のフィードバックとして特に優秀な答案を公表し、全般的な講評を行う。							
ゼミ選択上のアドバイス							
なるべく早く興味のある研究テーマを選ぶのは重要である。							
発表準備中の不明な点があれば、質問を前待って書き留めて授業中に担当教員に説明してもらうようにしよう。							
その他							
子のゼミ研究の目標は下記の通りである。							
グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な目差しをもって向き合う実践的な態度を獲得し、国境を越えた個別具体的問題への認識を深める国際教養及び研究手法を体得していること。							
異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること。							
日本社会にあって上記学術的素養を日々の生活に生かす方途をたえず模索するつよい意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	藤本 直生			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
英語による社会言語学および談話分析 Sociolinguistics & Discourse Analysis in English							
内容							
「ことばを話す」ことは、私たちが生活する上でとても大切な能力です。私たちは母語である日本語を無意識に話しているように思いますが、場所や状況に合わせて適切に使っています。また、ことばは生きていて、絶えず変化しています。社会言語学とは、このようなことばの変化に焦点を当てた学問です。本ゼミでは、3年次の国際研究ゼミナール3、4で学んだ次の10の観点からなる社会言語学の基本的なコンセプトをもとに、談話分析の研究手法も加えて学びます。							
1. Gender 男女によることばの差							
2. Age 年齢差によることばの違い							
3. Ethnicity 人種・民族による言語差							
4. Social class and regional differences 社会階級と地域による言語の違い							
5. Language and culture 言語と文化							
6. Forms of address 呼びかけ表現							
7. Politeness ことばによる丁寧表現							
8. Image and association イメージと連想							
9. Speech acts and discourse スピーチアクトとディスコース							
10. Nonverbal language 非言語伝達							
さらに、データとして各自映画やテレビ番組の一場面、あるいは友達や家族との会話を録音してテープ起こしをし、談話分析の研究手法に従って分析を行います。							
なお、英語で卒業論文を書くための基礎を養うために、Extensive Reading(略して ER、多読)も並行して行います。ER では図書館にある Graded Readersの中から自分の興味ある内容の本を選んで、昼休みや放課後等の時間を使って各自のペースで読み進めます。							
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
『An Invitation to Sociolinguistics 社会言語学への招待ー社会・文化・コミュニケーション』							
田中春美&田中幸子編著、ミネルヴァ書房							
『タテ社会の人間関係ー単一社会の理論』中根千枝著、講談社現代新書							
『「甘え」の構造』土居健郎著、弘文堂							
『表と裏』土居健郎著、弘文堂							
『めざせ！100万語 読書記録手帳』SSS 英語学習法研究会著、コスモピア株式会社							
その他、プリント教材を使用するため、それを綴じるためのファイルを各自で購入すること							
ゼミの進め方							
各自で収集したデータをもとに、ペアやグループでディスカッションしながら進めます。							
成績評価基準							
授業態度・授業への参加 30%、ER 20%、卒業論文の準備と進み具合 50%							
ゼミ選択上のアドバイス							
ことばやさまざまな言語に関心があり、英語で社会言語学と談話分析に関する卒業論文を書き上げたいと考えている学生の皆さんは、藤本ゼミを受講して下さい。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	3年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	3年
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

現地視点を導入する中国と日本研究

内容

このゼミは次の特徴があります。第一は外国を研究する時、現地の視点を導入する方法を実践します。外国研究において、「他者を他者の内側から理解する」ことの重要性から、対象国の言葉で理解することを重視します。したがって、中国研究においては、日本語文献のみに頼るばかりではなく、できるだけ直接中国語文献を読むよう勧めます。ゼミでは、中国語の文献や映像も導入します。ただし、語学の授業ではなく、研究の中で中国語を用い、よって中国語の使用能力を高めるのです。もちろん、日本語による中国研究の文献も重視します。要するに、多様かつ国際的な視点を通して、学生自身の見解を立ててもらいたいです。

第二は、知性と学術的素養の形成を目指します。卒論テーマは学生それぞれの関心に基づいて決めますが、ゼミの内容は主に学生の知的思考と論理性および中国語能力を高めるために組みます。具体的には、中国語または日本語の文献や作品（映画も含めて）に描かれた社会事象を取り上げ、学術的概念を手がかりとして分析してみます。例えば、愛とは何か、肉親や友人関係を超えた赤の他人への愛はどこまでできるのか、仁という概念を活用して考えます。また、利益を求める場合は徳義を無視すると、どこまで害が発生するのか、競争において徳義があるのとならないのとはどう違うのか、義と利という対概念を活用して考えます。あるいは「中国人の日本観」「日本人の中国観」についての文献を読み、その相互認識を通じて、他者理解、異文化理解、歴史認識、現実利害から日中関係を考えます。

第三は、学生諸君の個性を生かしてそれぞれの関心を卒論テーマに組み込みます。分野としては、政治、経済、文化、習俗、国際関係にわたっても、日本と中国の比較研究も可能です。方法としては、中国に内在した研究、日本に内在した研究を試み、あるいは中国を通じて日本を見、日本を通じて中国を見、日中を通じてアジアを見、世界的な問題への理解を目指し、あるいは身近な新潟の実践的課題を考えることも可能です。要するに、学生がそれぞれ自分の関心から研究テーマを選び、それに応じて、私は学術研究の方法を具体的に指導します。

使用予定テキスト

ゼミの時に知らせます。

ゼミの進め方

一方では、中国語の文献や映像を学びます。例えば、中国人に書かれた中国語文献や他国の人に書かれた中国語文献を輪読・輪読し、あるいは、中国の映画や映像資料を見て理解・討論し、中国語による研究能力も次第に身に付けます。他方では、日本人の手による優れた研究文献を輪読し、日中双方の視点から内在的理解の思考様式を育てます。そうしているうちに、学生自分の真の関心を見つけ、卒業研究へと発展します。3年次は主として知的思考と中国語能力を高め、自分の関心ももてる課題を見つけ、学術研究の基本的方法を学び、卒業研究の基礎をととのえていきます。4年次は卒論を中心として進め、学術論文のルールやプレゼンの方法を教え、皆が自分の研究成果を完成するよう指導します。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示します。

成績評価基準

ゼミの出席と輪読や討論の状況に基づきます。

ゼミ選択上のアドバイス

このゼミは語学の授業ではありませんが、一定程度の中国語の修得を前提にして、中国語を研究に使いますので、中国語履修者が望ましいです。

その他

私の専門分野は思想史です。思想史は堅苦しいと思われがちですが、社会を良くするために考え、思索した人々の感動的な物語であり、意外と普通の人の日常生活や感覚につながっています。私は思想の角度から、日本と中国の近代化における諸問題を研究しています。日本の優れた政治学者・丸山真男先生から指導を受け、「他者を他者の内側から理解する」という教示に、他者感覚の重要さを深く感じました。

私の従来の関心は、中国が抱えている民主化の問題と多民族社会の問題にあります。現在は、グローバル化における中国経済と日中関係の諸問題にも注目しています。ただし、ゼミの研究テーマは、私の関心と研究分野に縛られず、主に学生の関心に基づきます。また、中国で生まれ育った私は、30年以上日本に生活しており、この経験の中で、双方の視線から、相手に内在した理解を次第に身に付けています。ぜひ双方向からの国際理解を、学生と一緒に試みたいのです。

これまでの卒論テーマの例：

- 1、戦後の日中民間交流
- 2、日中友好協力と新潟県人の活躍
- 3、中国の環境問題とNGO活動
- 4、中国の経済格差の問題
- 5、中国大陸と台湾の関係

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	申 銀珠			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
韓国・朝鮮と日本～「今」と「これから」を考える							
内容							
国際研究ゼミナール3、4、5で学習した内容を踏まえながら日本と韓国・朝鮮関連の様々なテーマを勉強し、具体的な自分の研究テーマについて発表してもらいます。時事問題なども積極的に取り上げながら常に自分と社会の関連性を意識し、理解を深めていきたいと思います。よい卒業論文を完成するためにゼミ内での討論や意見交換の時間も作りたいと思います。それぞれの異なる研究テーマをともに共有しながら、知識の拡大と深化にもつ手目でほしいと思います。							
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
ゼミ生の発表内容に応じて参考文献等を紹介し関連分野の理解を深めていくようにしたい							
ゼミの進め方							
発表者の発表内容を事前に知らせ、関連分野について事前に学習して臨むようにしたい。							
毎回司会者とコメンテーターをあらかじめ決めておき、ゼミでの発表と議論が円滑に行われるように努めたい。							
成績評価基準							
主に学期末のレポートで評価する。出席率、普段の授業態度、発表内容、発言等を評価に加える							
ゼミ選択上のアドバイス							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310008	X-21-B-3-310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	瀬戸 裕之			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
東南アジアにおける冷戦と国際紛争							
内容							
4年後期のゼミは、ゼミ生の卒業論文のテーマに従って、文献研究や調査の結果を中心に議論します。							
使用予定テキスト							
ゼミにおいて、文献と資料についてアドバイスします。							
ゼミの進め方							
各ゼミ生が、卒業論文のテーマに従って報告し、それに基づいて議論します。							
成績評価基準							
ゼミの中での報告（50%）、卒業論文中間報告への取り組み（30%）、ゼミでのディスカッションへの参加（20%）、に基づいて、成績を出します。							
ゼミ選択上のアドバイス							
前期のゼミが終了するまでに、卒業論文計画をすでに提出していることが望まれます。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習